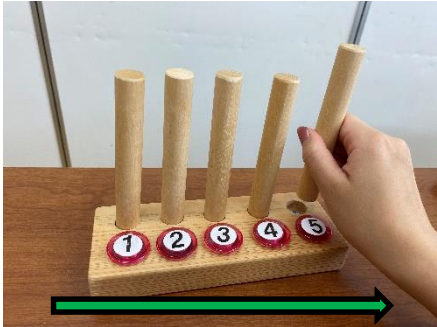


[つくば特別支援学校教材教具シート]

教材	「いろいろ使える！ たのしいうれしい 棒さし・リングさし」 アドバイザー：障害児基礎教育研究会 代表 吉瀬正則 先生 参考図書：立松英子，発達支援と材教具Ⅲ，2017.5.9，P53.68	
写真	① 棒さし  左から順にさすことで、方向を意識付ける。	② 失敗しない！感覚で覚える5までの数 
	③ レベルアップ！5までの数 	④ これでマスター☆5までの数 
作成者・所有者	A部門小学部1年 T・R	
対象	① 方向に気付くことができるようになってきた児童生徒 ② 5までの数を学習し始めた児童生徒 ③ ④ 5までの数の学習に取り組む児童生徒	
目的・効果	① 棒さし教材として扱う。穴の位置を注視し、目を離さずに手を持っていくこと、穴の連続性と運動の方向に気付き、間を飛ばさずに順番にさすことが目的である。「点」の認知を強化しながらも、連続性をもった「線」の認知に変え、ひいては位置、方向、順序に気付き、形の理解へと繋げる。 ② 5までの数を学習し始める時に使用する。棒の高さ通りに操作していくうちに、数の感覚が身につく。具体的な操作が記憶に残ることで、数の系列の理解が容易になる。間違えることなく、成功経験を積めることが利点である。 ③ 棒の高さを一定にし、②と同じように行う。これができるようになると、数を理解したと思いがすが、パターン知覚水準の段階にいる児童生徒は、やり方を記憶しただけの可能性がある。確かな理解を促すため、④を行う。 ④ 5までの数の確実な理解を促す。	
使い方	・児童生徒の実態に応じて教材の扱い方を変容させる。	